



# 光受寺通信

H.25年 6月1日発行  
発行者 光受寺  
http://koujyuji.com/

ご遠忌法要を終えておよそひと月余り、まだまだ余韻が消えることはない。「とても印象に残るご遠忌でしたね」とか、「大変でしたでしょう。ご苦労様でした」とか言ったねぎらいの言葉や、「これからが住職としての本当の意味でのスタートですね」という励ましの言葉をいただくことが続いているからだ。

思い返してみれば、改修工事の計画段階から、とんでもない時間と労力と気苦労とを費やしたことも事実だし、ほっとした気持ちも事実なのだが、これからの光受寺の在り方にはそれ以上の大きな責務をも感じているところでもあるのだ。

「寺を活性化したい」これが住職としての最初の思いだったことを今思い出す。あれやこれやと寺との関わりを持っていただき、寺の存在意義や理解を深めていただきたい一心だった。除夜の鐘つきから始めて書道教室、子供報恩講、本山奉仕、研修会及び研修旅行など様々にできることをやってきた。そして今、梅を縁としての書道展をはじめ、光受寺同朋会、光受寺合唱団結成と一步一步とその歩を進めてきている。あらゆる場と、機会を通しての教化活動、それは多くの方からのご支援とご協力をいただきながらの歩みとなっているところにも、意義ある確かなものとして感じられるようになってきた。その一つひとつのお陰さまが、今回の法要によって証されたものだと思信をしている。

「寺の活性化」それは即ち私たち一人ひとりの「心の活性化」の歩みでもあるはずだ。

## 落慶奉告法要・親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を終えて

門徒の皆さんへ感謝

責任役員

T・Y

今回のこの大法要を迎えるにあたって、昨年末より何度も役員会を開き、検討してまいりました。何よりも重きを置きたかったのが門徒一人一役と言う全員参加による行事にしたかったことです。当初は勝手なお願ひだけに、どれだけの賛同がいただけるものかと不安でしたが、当日の早朝には思わぬほど多くの皆さんにお出かけをいただき、それぞれの役目を果たしていただいたことで、大成功の内に終えることができました。

これほどまでのご協力がいただけたとは思っていませんでしたので、本当につれしく、心から感謝いたしております。また、女性合唱団による仏教讃歌披露は、新鮮で新しい形での法要のあり方だと思われました。それぞれに仕事や家庭がある中での半年以上の練習は大変だったろうと思います。本当にご苦労様でした。

また、稚児宿を引き受けてくださった両家に対しても心から御礼を申し上げます。お寺と門徒の、この絆をいつまでも願っています。これからもよろしくお願いいたします。

一生の思い出

T・M

本堂改修工事が二十三年四月より始まり、予定よりずいぶん遅れはしたが、年末にはほぼ完成した。落慶奉告法要、親鸞聖人七百五十回御遠忌法要も二十五年四月二十八日(日)に役員会で決定され、稚児募集も百五十名となった。

本年三月末にはおおよその役割分担も決まり、私は交通安全の役を仰せつかった。当初は様々なことを想定しながら、万全の態勢で臨みたいと神経を使っていたが、当日はこれ以上ない晴天にも恵まれ、山門まで稚児行列のご案内させていただいたことを喜んでる。私の一生の良い思い出となった。

「念仏の生まれる生活を共に」御遠忌を通して大きな人生の指針をいただいたことだ。

稚児出番  
化粧くずして  
長く待ち 藤井実

待ちくたびれて、泣き出す稚児たち、暑さと汗ですっかり化粧は剥がれ落ちてしまった。何の我慢かわからないままの稚児の様子がかわいくも滑稽に映った。



## 光受寺合唱団に参加して

T・K

四月二十八日、晴天のもと落慶奉告法要、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌が営まれました。その際、光受寺合唱団の一員として参加させていただきました。去年十月より月一回先生に来ていただき、一生懸命練習を重ねて半年間で何とか本番に向けたのですが、いざその時になると口の中がカラカラに渴いて声が出せるのかと不安でしたが、本堂の中で整列しいざ歌い始めたら不思議と声が安らぎ落ち着いて全員が今までの成果を出すことができました。これも仏様のお導きとお守りがあったのではないかと思えます。歌い終わった後のすがすがしさは何とも言えない気持ちになりました。

また可愛らしい稚児さんたちも少し暑いのに行列を組んで頑張って参加してください、まるで昔絵巻を広げたように愛らしく素敵でした。

その後二十数名のお寺様の笙、箏に合わせた本堂を揺るがすような大きな声高いお経を初めて聴き、心より感動いたしました。このような機会にめぐり合えたことに感謝いたします。

## 音楽法要に参加して

M・U

三十五年ぶりに譜面を手にした練習初日、声をからして帰りました。月一度の練習に集い、家でも歌っていると、孫も一緒に口ずさみ、日常にはない新鮮な日々と、貴重な体験を与えていただきました。本番当日は素晴らしい五月晴れ一歌い終えた私の心もすがすがしい気持ちになりました。



境内で合唱に聴き  
入る人たちも。

集合場所となった神社



白いカーネーションをお供  
えし、手を合わせる稚児たち。  
若いお父さん、お母さんの  
願いが届きますように。

## お稚児さんに参加して

大垣市 U・A

初夏の陽気を思わせるような四月二十八日。光受寺さんの落慶・御遠忌法要の稚児行列に参加しました。

三度稚児行列に参加すると幸せになるとい言ひ伝えがありますが、二歳の娘にとっては二度目となります。また稚児行列に参加することで、御仏に守っていただき、優しく賢い良い子になると思っています。

お稚児さんの着飾った姿は、それは可愛らしく、二度と言わず何度も参加させたいくなるものです。

午前中に化粧を済まし、昼食をいただいたら少し眠くなってしまった娘さん。三十分で起こされ着付けをされて少々機嫌が悪くなってしまいました。半分ぐらい歩いたところで目が覚めたのか、元気よく走ったり、カメラに笑顔を見せてくれました。

祖父江から大垣市に嫁いだ私には久しぶりの墨俣で、ゆっくり街並みを見ることもでき、こんなお店があったかな?とか、ここでよく遊んだなあ、と懐かしい気分にもなりました。

数分後には本堂に到着しました。生まれた時から光受寺の住職さんとは、おじいちゃんの法事や、毎月のお常飯では顔を合わせてはいましたが、寺を訪れたことは曖昧な記憶ではありますが、初めてのような気がします。ふと、一昨年亡くなった信心深かったおばあちゃんのことを思い出し、おばあちゃんもこの娘のお稚児さん姿を見ていてくれるのかな、と思ったりしました。

娘は靴を脱いでスタスタと階段を上り、お賽銭を渡すと喜んでお参りをしていました。少々お転婆な娘が、お利口さんになりますようにとお参りさせていただきました。晴天にも恵まれ、思い出に残るお稚児さんとなりました。ありがとうございました。